
月

ポイ宇宙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月

【Nコード】

N7350A

【作者名】

ポイ宇宙

【あらすじ】

暗い夜道を歩く男は月が怖がっている。その男の怖がる理由とは、

（前書き）

二作目になりました、下手だけど怒らずに読んで下さい

暗い、月の光しかない道を歩いていた。月はこれでもかと言いたいほど大きく丸々としていた。

俺はこの月に恐怖していた。

月が怖くなったのは、たぶん純が死んだあの日からだろう。ある日、純が俺に会いたいと電話をしてきた。俺は了承し、純の家に行った。純の家の中はこの前来たときは違い何か空気が重かった。

「やあ、久しぶり」

純の顔は前よりもやつれていた。

「どうしたんだよ、急に呼び出して」

純は細い足を掻きながら口を開いた。

「月が怖いんだ」

突然何を言い出すんだこいつと思った。部屋のカーテンは完全に閉めきられていて月の光が入らないようにされていた。純は困った表情の俺をみて話すことをやめた。

「ごめん、急にこんな話して、久しぶりに会ったんだ飲もうぜ」

純は無理矢理作った笑顔で冷蔵庫から出したビールを飲み始めた。結局、純が月について話すことは無かった。次の日、純が倒れ病院に運ばれた。俺に純の倒れた連絡が入り病院に行った。そして純の死に目に立ち会った。純は死ぬ直前にこう言い残した。

「カーテンを…閉めてくれ月が…月が見ている」

この言葉を聞いてから俺は月が怖くなった。

「月が見ている」

この言葉がずっと頭の中に残っている。俺は一つの仮説を考えた。月が見ているということから月は星ではなく目ではないのか、それも巨大な生物の。

そして月の形が変化することから、さらに目という確証が得られる。形がかわるのは、まばたきをしているためで見ている奴と俺達との

時間の間隔も違う俺達の一ヶ月は奴にとつたらまばたき一回分と言う短さだ。しかし何故この世界を見ているのか分からない。

そう思った時だった、突然体の自由が聞かなくなった。手足を動かすことができず目だけ動かすことができた。そして俺からコントロールが離れた足は進行方向から外れ、車道に向かって歩きだした。止まれ、止まれ、しかし止まらない。いや止まった、車道の真ん中で。そしてまた体は動かなくなった。前から車の走る音が聞こえてきた。しかし避けることはできない。

体の中を衝撃が走った。

俺の体は打ち上げられた。

そして全ての謎が解けた。

まず俺の仮説は間違つて無かった。それを知り奴は俺、そして純を消した。俺達はバグなのだ。この世界は奴にとつてゲームなんだ、月として俺達の生活を見ながら操っていた。なぜなら俺の背中から月に向かってゲーム機のコントローラーのコードがでているのが今になって見えたからだ。意識が無くなる瞬間月が目に入った。月は三日月になっていた。

俺にはそれが意地悪く笑っている目に見えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7350a/>

月

2010年10月10日23時23分発行